



結成20周年を祝して

全国公害研協議会 顧問

第五代会長 和田 裕

(元 神奈川県公害センター所長)

全国公害研協議会結成20周年おめでとうございます。

私も退職してすでに11年を経過しましたが、突然の執筆のご依頼に恐縮より戸惑いの方が先き立った感がありました。それは退職して3カ月目に、思わぬ病魔に冒され、5回の手術を受けても未だに完治していない状況で、外部の人と疎遠になっている関係かも知れません。

理事会から副会長を指名されたのは、多分昭和52年だったと思います。会長には広島県公害センター所長黒本義春先生でした。先生は頭脳明晰、行政手腕抜群で、会長には打ってつけの方でした。初年度は好調な滑り出しで、種々の業績をあげ、順調に任期が終ると期待していた矢先、53年の7月に入り緊急連絡で、先生が県監査委員に栄進されるとのこと。全く寝耳に水で慌てて、広島県東京事務所で開催された臨時理事会を開き、会長は改めて選ばず、副会長が任期まで会長を代行することに決まりました。

あとの1年の業績は、ご存じのとおりで皆さまの足手纏いになっていたと確信しています。当時、広域暴力団組長が急死し、次期組長が決るまで、代行が組を取り仕切ることになると紙面を賑わしており、代行という名が気になっておりました。今年の8月、ソ連でクーデターがあり、その首謀者の一人が大統領代行で思わず苦笑してしまいました。

さて、環境問題を考えてみますと、その過中にいるときは、騒音、大気、水質など個々に考え、その数値のみを追っていたように思います。いま環境が人間によって変化していく中で、これらの数値がよくなることは、あまり期待できません。さらに便利で快適な環境になればなるほど、その一方で環境が悪化していきます。そこで、自然環境の持つ浄化能力の可能な域まで、汚染物質の数値を下げねばならないことは分り切ったことですが、現在の社会情勢では不可能なことです。日本の車の保有台数を、1000万台減らすとか、消費エネルギーを3分の2にするとか、口で言えば簡単ですが、実行はできません。

しかし、私たちより後の人は、どうしても避けては通れない問題で、真正面から取り組まねばなりません。この不可能に近い問題を、人間の英知によって解決して、人類がさらに100年、200年生き延びることができるように祈ってやみません。

(会長代行期間：昭和53年4月～昭和53年7月)

(会長在任期間：昭和53年8月～昭和54年6月)